

図書館だより

松島中学校

2021年

6月号

6月は平和月間です。

1945年の沖縄戦では沖縄県民、他府県出身兵、米軍人あわせて20万人あまりの命が失われました。なぜ戦争が起こったのか。どのような経過をたどったのか。人々の心にどんな影響を及ぼしたのか。世界はどう動いたのか。どんなことが問題なのか。毎年沖縄戦について新しい本が出版され、新聞では特集が組まれるのはなぜか。戦争はもうなくなったのか。いろんな角度から考えてみてください。“私が望むのは、考えることで人間が強くなることです。危機的状態にあっても、考え抜くことで破滅に至らぬよう。”ハンナ・アーレント/ドイツ出身の哲学者・思想家



悲しい追憶

赤十字看護看護婦十七歳の沖縄戦

久場千恵／著

この本は、久場千恵さんが体験した今ではありえないことがつづられています。

私は、32ページの「お国のために自分が犠牲になるのは当然のように教え込まれていた」という言葉に、自分的にはその教えはあまりよくないと思いました。自分がもし千恵さんだったら、怖くて逃げ出していたかもしれないけど、千恵さんは怖くても逃げ出したくても戦争でけがをした人達を手当てしていきしました。この本はつらい話などがいっぱい書かれていますが、平和の大切さなどがよくわかる本なので、ぜひ本でみてください。（図書委員）



いのちの重さ 伝えたい

沖縄戦 1フィート運動と中村文子のあゆみ

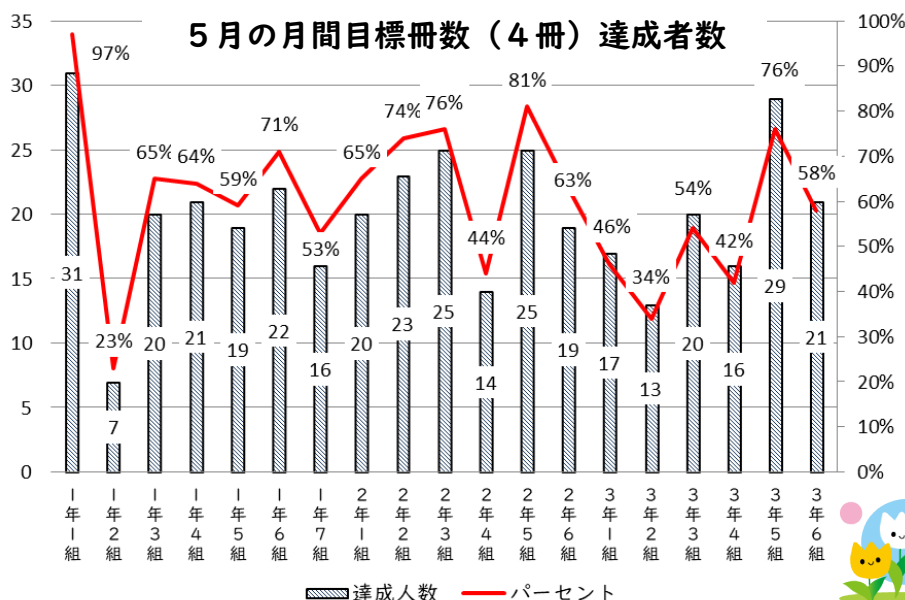
真鍋和子／著

私は沖縄戦の恐ろしさと苦しさについて学んできましたが、沖縄戦が終わり、何年かたっても沖縄戦の恐ろしさは話されず、また、何年かたって語られ始め、語られるにも、どんなことから語られ始めたのか分かりませんでした。でも、この本を

読んで、中村さん達が沖縄戦を伝えるため「1フィート100円で買い取ろう」という運動などがあったことが分かり、戦後の沖縄戦を伝える取り組みも知っていた方が良かったと思います。（図書委員）

※1フィート運動とは、沖縄戦のさなかにアメリカ軍が撮影した沖縄戦の実写フィルムを県民の力で買い取ろうとした運動です。

読書でめざそう 〈自ら学び 心豊かに たくましく生きる松中生〉



沖縄戦パネル展

場所：センターホール

期間：6月1日～6月30日

毎月第3日曜日は

ファミリー読書の日

ノーマン・ノーゲームで
本を読もう！



今月は
6/20（日）

・・・でした。